

# 接頭辞 RE の本質的機能

## —reconnaître の場合—

佐々木（山本）香理  
(関西学院大学非常勤)

RE ( re, r, ré を代表し, 以下 RE と記す. ) の本質的な機能は, 「反復 (itération)」を表すことであると従来指摘されることが多かった. そして, RE が付加される動詞の意味特性やコンテクストに応じて RE は様々な価値を担う. 例えば, *Le Grand Robert de la langue française* では次のようなものが示されている:

- 1) 後退 (le fait de ramener en arrière) : *rabattre, recourber, reculer, retirer, etc.*
- 2) 元の状態への回帰 (le retour à un état antérieur) : *ramener, refermer, rétablir, rhabiller, etc.*
- 3) 繰り返し (la répétition) : *redire, refaire, rejouer, réaffirmer, etc.*
- 4) 強度・完遂 (le renforcement, l'achèvement) : *réunir, ramasser, relier, etc.*
- 5) RE を付加する前の動詞と同義 (Sens équivalent de celui de la forme simple moins usitée ou réservée à d'autres emplois) : *raccourcir, raffermir, ralentir, récurer, remplir, rentrer, etc.*

ところが, 動詞によっては, RE がどの価値を担っているかが明らかでないことがある. 特にそうした印象が持たれる動詞として認知動詞を挙げることができる. 従来の研究では, 主に具体的な行為を表す動詞が考察の対象とされ, 認知動詞については十分な記述がなされていない. 認知動詞を含む RE の本質的機能を論じた研究として, Franckel (1989, 1997) があるが, 具体例が少なく抽象度が高いため難解な点が多い.

本研究は, Franckel の論に依拠しつつ, 発話例の検討を通して, RE の本質的機能を明確に規定しようとする研究の一環である. 本発表では, RE を付加する前の動詞と共に現代フランス語において使用頻度が高い動詞 *reconnaître* を考察の対象とする. そして, 必要に応じて *connaître* と比較対照することにより, *reconnaître* を用いる際に発話者が行う発話操作を明らかにし, RE の本質的機能を探る.